

保育士養成校における学生の表現活動に対する
意識変容につながる指導法の検討①

石 川 ますみ・重 松 悠 希

Consideration of the teaching methods which leads to change the student's
conscious for expression activities in a nursery teacher training school vol.1

ISHIKAWA MASUMI, SHIGEMATSU YUKI

豊岡短期大学 論集

第 13 号 別 冊

平成 28 年 12 月 20 日 発 行

保育士養成校における学生の表現活動に対する 意識変容につながる指導法の検討①

Consideration of the teaching methods which leads to change the student's
conscious for expression activities in a nursery teacher training school vol.1

石 川 ますみ・重 松 悠 希

ISHIKAWA MASUMI, SHIGEMATSU YUKI

はじめに

保育者にとって重要なのは、乳幼児の発達、保育内容や方法などについての知識や理解を深めることだけでなく、現場で乳幼児に対応するための資質である。無藤ら（2007）は、「子どもは豊かな感性の下地になるものは持って生まれると言われているが、それを発揮させ、さらに育てるのが保育者の役割である。感性を育てることは、表現を育てることである」⁵⁾と述べている。保育者は、乳幼児の「表現」を引き出し、育成することで感性を育んでいかなければならない。表現活動に関わる保育実践は、さまざまな知識と理解をもとに「身体表現」「音楽表現」「言語表現」を用いて直接子どもに働きかけていくものである。溝口（2012）は、「領域「表現」における幼児への保育者の援助や役割は、保育者自身の表現性と大に関係する。」また、「学生が子どもの「表現」について理解できても、あるいは理解しようとしても保育者を目指す学生自身が「表現者」として実践体験が少ない」⁶⁾と述べている。乳幼児の発達を支援するときに保育者自身の「表現力」は重要な資質能力であり、保育士養成校においては学生自身の「表現力」の育成が必要であると言える。

しかし、最近の保育士養成校の学生の中には受け身で指示待ちであり、人前で一人で発表したり歌ったりする際に責任をもった発表態度で臨むことができない人が多い。表現活動においては固定概念にとらわれており、他者からの評価を必要以上に気にするあまり決められた動きしかできない。また人と違う動きや言動をすることに抵抗や羞恥心を感じる学生もいる。全体的に、体験や経験がないことを「できない」と思い込み、自信のない学生が増えているように感じられる。このような最近の学生気質や行動の変化から、学生の姿勢・表現態度が表現力の乏しさにつながっていると考えられ、「表現」に関わる授業内容についての検討が切実な課題となっている。

先行研究としては村山（2009）が「保育士養成における音楽の授業内容」について検討しており、「歌唱、ピアノ、音楽あそび、合奏などの音楽的技術の要素を有機的に連関」させ、「反復練習となるように授業を展開」することで技術の向上を図り、「グループ活動による効率的で効果的な授業の実施形態をとる」⁷⁾ことを提案している。ここでは音楽表現に関する授業実施についての知見が得られるが、智原ら（2015）は「保育現場では多様な表現活動が行われており、音楽・身体・言語表現の活動は関連させて実施されていることが多い」⁸⁾と報告しており、保育士養成校における音楽表現と身体表現、言語表現を関連させた授業実施の必要性が示唆されている。

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」

のねらいでは保育における活動の中で「いかにうまく歌えるか」「いかに正しく動けるか」という技術の向上だけではなく感性を養い、多様な人間力を幅広く身につけることを目標としている。表現力に関わってくる感性を豊かにするものは技能や技術だけでなく「協調性」「人間関係」「社会性」など、自分自身の人間性であり、心の豊かさは感性につながるともいえる。よって、執筆者は表現活動において「協調性」「人間関係」「社会性」など、直接表現に関わらないものを幅広く習得することが大切であり、領域における「表現」以外の「健康」「人間関係」「環境」「言葉」の内容も鑑みながら活動を捉えていく必要があると考えた。たとえば、健康領域で身体を動かす喜びを感じる、人間関係領域で人と協力し活動をすすめる、環境領域で自然に触れる、言語領域で絵本を用いるなど、表現領域の中でも工夫が必要なのではないだろうか。

そこで本稿では、このように音楽・身体・言語表現の関連した表現活動の実施を目的とした「こどもとりズム表現」の授業を事例として、表現活動に関わる意識を問う 授業事前・事後アンケートを分析し、授業担当教員からの分析を求めることによって、どのような授業を行うことで学生の意識変容を促せるのか、また現代の学生に有効な授業展開はどのようなものなのかを探っていきたい。

1. 調査方法

(1) 調査・分析対象

学生アンケートに関しては、T短期大学通信教育課程に所属し、保育士資格または幼稚園教諭免許の取得を目指す1年生のなかでスクーリング授業「こどもとりズム表現」を2016年5月から9月に履修した学生213名を対象に調査を行い、回答を得た。このうち、回答に不備のあったものを除く199名を分析の対象とした。教員アンケートに関しては、上記の「こどもとりズム表現」の授業を担当した教員、授業を見学した教員を対象とした。

(2) 調査方法・時期

T短期大学の1年生での開講科目である「こどもとりズム表現」の7.5コマの授業前後に質問紙調査(無記名・自記式)を行った。調査時期は2016年5月～9月であった。

(3) 調査内容

筆者らで作成した質問項目を用いて、「こどもとりズム表現 事前・事後アンケート」を実施した。今回は、授業に関わる表現活動についての質問を行った。質問紙項目の内容は、以下のとおりである。

学生対象

1) 事前アンケート (表1)

①表現活動に対する意識

音楽・身体・言語表現の関連に関する質問として、身体表現、音楽表現、言語表現の各表現活動に関して、それぞれ4つの観点から自身の意識を5段階評価してもらった。「そう思う」を5点、「どちらかというと思う」を4点、「どちらでもない」を3点、「どちらかというと思わない」を2点、「思わない」を1点として得点化した。

②あなたにとって表現とは？

音楽・身体・言語表現の意義に関する質問として、14項目に関して、自身の「表現」という捉え方に当てはまるものを複数回答可として選択を求めた。

③表現に関係すると思われる言葉

音楽・身体・言語表現の関連に関する質問として、28項目に関して、自身が「表現」に関係すると思われる項目を複数回答可として選択を求めた。

2) 事後アンケート (表1、表2)

①、②、③については事前アンケートと同様の内容とした。

④授業内容について

学生の表現力の育成に関する質問として、授業内で設定した8単元について、それぞれ興味を持った、役に立った、重要だと感じたという項目について自身の感覚を5段階評価してもらった。「そう思う」を5点、「どちらかというと思う」を4点、「どちらでもない」を3点、「どちらかというと思わない」を2点、「思わない」を1点として得点化した。

⑤授業の感想

授業を受けての感想を自由記述で求めた。

教員対象 (学生アンケート回収後に実施) (表3)

对学生アンケートに関して、事前・事後での変化について自由記述での考察を求めた。

表1 学生用 授業事前・事後同一アンケート

【1】表現活動に対する意識 それぞれの表現活動について、当てはまるものに丸をつけてください。					
5 そう思う	4 そう思う	3 どちらかという思う	2 どちらかという思わない	1 思わない	身体表現 身体の動きを通した表現 ①この表現方法が得意だ ②この表現方法が好きだ ③この表現方法は保育士として必要な技術だ ④自分はこの表現方法を身につけている ⑤この表現方法が得意だ ⑥この表現方法が好きだ ⑦この表現方法は保育士として必要な技術だ ⑧自分はこの表現方法を身につけている ⑨この表現方法が得意だ ⑩この表現方法が好きだ ⑪この表現方法は保育士として必要な技術だ ⑫自分はこの表現方法を身につけている
【2】あなたにとって表現とは? あなたにとって表現とは何だと思いますか。あてはまるものに丸をつけてください。(複数回答可)					
・自己主張 ・自己発見 ・自己開放 ・自己満足 ・自己認識 ・自己発達 ・自己肯定感 ・承認欲求 ・心情の育成 ・社会とのつながり ・感情の表出 ・他者理解 ・コミュニケーション手段 ・内省力(自分のことを考える力)					
【3】表現に関係すると思われる言葉 次の言葉から、「表現」に関係すると思われる言葉に丸をつけてください。(複数回答可)					
・好奇心 ・探究心 ・競争心 ・向上心 ・自立心 ・注意力 ・集中力 ・理解力 ・判断力 ・表現力 ・社会性 ・協調性 ・感受性 ・積極性 ・創造性 ・柔軟性 ・想像力 ・調和 ・自主性 ・記憶力 ・機敏性 ・思考力 ・社交性 ・受容と共感(そのまま受け止め気持ちを分かち合う) ・人間関係 ・他者理解 ・社会とのつながり ・心身の開放					

表2 学生用 授業事後実施アンケート

【4】授業内容について 各授業の内容について、「興味を持った」、「役に立った」、「重要だと感じた」の各項目について、あてはまるものに丸をつけてください。					
5 そう思う	4 そう思う	3 どちらかという思う	2 どちらかという思わない	1 思わない	興味を持った 役に立った 重要だと感じた 1. 領域「表現」についての基本的な考え方 2. 身体表現①/ 音の合図、からだオーケストラ、基本ステップなど 3. 身体表現②/ 模倣、基礎的な動き 4. 音楽表現・身体表現/ 振付をしてみよう 5. 音楽表現/ 楽器と奏法、オリジナル楽器制作 6. 言語表現/ オノマトペと表現 7. 表現する力を育てるための保育者の役割と援助/ 絵本と表現 8. リズム表現/ オリジナル遊び歌、手遊びの制作

【5】授業を受けての感想

「こどもとリズム表現」の授業を受けての感想を自由に書いてください。

表3 教員用アンケート

【1】 学生アンケート「表現活動に対する意識」について、お気づきの点がありましたらご記入ください。
【2】 学生アンケート「あなたにとって表現とは？」について、お気づきの点がありましたらご記入ください。
【3】 学生アンケート「表現に関係すると思われる言葉」について、お気づきの点がありましたらご記入ください。
【4】 学生アンケート「授業内容について」について、お気づきの点がありましたらご記入ください。
【5】 その他、「こどもとリズム表現」の授業に関してご意見がございましたら自由にご記入ください

(4) 授業について**授業概要**

本授業は、T短期大学通信教育部 保育専攻（3年制でコースにより保育士資格のみ、幼稚園教諭2種免許のみ、または両資格が得られる）、幼児専攻（2年制で幼稚園教諭2種免許のみが得られる）両専攻において、1年次に必修となっている科目である。授業時間は7.5コマ（675時間）であり、1日半の集中実施での対面授業となる。授業内容については表4を参照。

目 標

本授業では、学生自身がまず「表現する」経験を積むことを大きな目標とした。また、グループ活動を多用することによって、人間関係を形成し、協調性、社会性を養うことを意識している。更に、表現に対して苦手だ、嫌いだ、から得意だ、好きだ、と意識変容させたいという思いがある。

特 色

本授業においては、学生の感性を育むという点において、日本の行事、自然、季節、生活をテーマとしてオノマトペをあげる活動を実施した。また、学生の人間関係の構築力を育むことを目的に、個人で行う活動のほか 多数のグループ活動を実施し、グループ活動では單元ごとに違うメンバーとなるように環境設定した。更に学生の表現力育成のため、1度目の発表の後に他グループの発表をふまえて再度内容を見直し2度目の発表を行うように設定した。更に2度目の発表後、自分のグループの創作したものを他グループに指導して全員で実践する活動を実施した。また、音楽・身体表現だけでなく言語表現の分野と関連を図るため、絵本やオノマトペを用いた活動を行った。

授業事前課題

絵本100冊を読み、絵本カードを作成する。（図1）授業を受けるにあたって、事前課題の提出が必須となる。授業で絵本を題材にした活動があるため、絵本についての知識を深めることを目的としている。

分類：外国の昔話	
絵本名：3びきのこぶた	挿 絵：山田 三郎
作 者：イギリスの昔話	出版：1971年（初版1967年）
訳 者：瀬田 貞二	季 節：季節を問わず
出版社：福音館書店	対象年齢：5歳～
あらすじ	感想・気付いたことなど

図1 絵本カードの例

表4 「こどもとりズム表現」授業概要

授業の到達目標及びテーマ			
保育内容を理解し、こどもの音楽表現遊び、身体表現遊びを展開するために必要な知識や技術を自己表出、自己発見、自己表現という一つの表現手法の流れに従い、音楽表現的領域、身体表現領域、言語表現領域から見出し、保育指導法を修得していくことを目的とする。また、こどもの音楽表現、身体表現の指導援助者として、保育内で扱う教材について必要な知識をも合わせて習得する。			
授業単元	目 標	内 容	備 考
1. 領域「表現」についての基本的な考え方	・5領域間の関係について考える。 ・「表現」についての自身の考えをもつ。 ・自身の考えを他人と共有し、新たな視点を得る。	・幼稚園教育要領 第2章における「表現」に関する記述 ・保育所保育指針 第3章における「表現」に関する記述 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 第2章における「表現」に関する記述 ・5領域間の関係	「表現」に関する記述について個人で確認するなど個人での活動のほか、5領域間の関係、「表現」とは何か、についてグループ（5人程度）に分かれて意見をまとめるなどグループでの活動を実施。
2. 身体表現①	・基本的な動きを実践する。 ・自身の動きのパターンを増やし、新たな身体表現のための手段を得る。 ・リズムパターンを他人と行うことで、コミュニケーションを取り新たなものをつくり出す経験をする。	・音の合図 ・からだオーケストラ ・基本ステップ ・空間認識と身体の動かし方 ・テンポとイメージ ・心を動かすいろいろな音 ・音の体験の仕方いろいろ ・感情と動き ・イメージと動き ・動きとリズム	歩く、走る、スキップ、ギャロップ、ジャンプ、ゆれるなど基本的な動きやステップを実践するなど個人での活動のほか、リズムパターンの作成やそれに合う動きの作成をグループ活動で実施。
3. 身体表現②	・基礎的な身体の動かし方を改めて実践し、動きの多様性に気付く。	・模倣の対象例 ・模倣表現の過程 ・基礎的な動き	しゃがむ、ねる、おきる、ひねるなど基礎的な動きの実践や動きを組み合わせることでのフレーズ作成をグループ活動で実施。
4. 音楽表現・身体表現	・単元2・3で学んだ身体の動かし方を音楽にのせての表現につなげる。 ・仲間と協力して、時間内に振付を行う。また、振付ができたという達成感、自分でも振付が出来るんだという自信を味わう。	振付をしてみよう	童謡やわらべうたへの振付をグループ活動で実施。グループ全てが同じ曲への振付、グループごとに違う曲への振付、の2通りを実施。また創作作品の発表後、他グループに作品を指導して全員で実践する活動を実施。
5. 音楽表現	・音を奏でる楽器への興味を持つ。 ・自分なりに音を表現する手立てを考え、制作する。	・音楽表現のねらいと音を出す活動 ・主な楽器の種類と奏法 ・オリジナル楽器をつくらう	オリジナル楽器を個人で制作したのち、グループごとに作成した楽器を使用しての合奏を実施。その後、指揮、合唱、演奏を加えて再度発表を実施。
6. 言語表現	・ことばのもつ音とリズムに着目して、言葉と音楽・身体につながりを感じる。	・オノマトペと表現 ・オノマトペ	オノマトペを軸にしたストーリーの作成、ストーリーを音や声なしでの身体表現、楽器や身体で出す音を利用して当てはめながらの身体/音楽表現をグループ活動で実施。
7. 表現する力を育てるための保育者の役割と援助	・仲間と協力して絵本を元にした表現活動を実践する。 ・仲間の表現方法をみて、新たな視点を得る。	絵本と表現	絵本のストーリーについて、セリフなしでの身体表現、楽器や身体で出す音を利用して当てはめながらの身体/音楽表現をグループ活動で実施。

8. リズム表現	・仲間と協力して、リズム遊びを創作する。また、リズム遊びを自分たちで創作することができたという達成感や自信を感じる。	・オリジナル遊び歌、手遊び	オリジナルのリズム遊びの作成をグループ活動で実施。また創作作品の発表後、他グループに作品を指導して全員で実践する活動を実施。
----------	--	---------------	--

2. 分析結果の説明

表5は、身体表現、音楽表現、言語表現のそれぞれの表現活動に対して、得意・好きなど4つの視点から5段階 自己評価の平均値とその増加量を示したものである。設問③⑦⑧に関しては増加量が0.15以下となっている。しかし事前・事後ともに平均値は4.5以上であり、学生が授業前からすでに表現活動が保育士にとって必要な技術であると考えており、授業後もその考えは変わらなかったことがわかる。また、設問①⑤⑥に関しては事前の平均値が2.95以下だがそれぞれ増加量は0.40以上となっており、事後の平均値はそれぞれ3.30以上となっている。学生は授業前には表現活動がどちらかというと苦手だと感じていたが、授業を受けることによってどちらかというと得意だと意識変容したことがわかる。④⑧⑫についても同様の変容がみられ、学生の意識は授業前にはどちらかというと表現方法を身につけていないと感じていたが授業を受けることによってどちらかというと表現方法を身につけていると意識変容している。さらに、②⑥⑩に関しては事前の平均値はそれぞれ3以上であり、増加量は0.4以上となっている。学生は授業前にどちらかというと表現が好きだと感じているが、授業を受けることによって更に表現活動が好きだと感じるようになったことがわかる。

表5 授業前後の表現活動に対する意識の変化

【1】表現活動に対する意識		事前	事後	増加量
身体表現	①この表現方法が得意だ	2.88	3.32	0.44
	②この表現方法が好きだ	3.34	3.98	0.64
	③この表現方法は保育士として必要な技術だ	4.64	4.79	0.15
	④自分はこの表現方法を身につけている	2.73	3.36	0.63
音楽表現	⑤この表現方法が得意だ	2.94	3.34	0.40
	⑥この表現方法が好きだ	3.51	3.94	0.43
	⑦この表現方法は保育士として必要な技術だ	4.67	4.77	0.10
	⑧自分はこの表現方法を身につけている	2.71	3.48	0.77
言語表現	⑨この表現方法が得意だ	2.76	3.30	0.54
	⑩この表現方法が好きだ	3.20	3.79	0.59
	⑪この表現方法は保育士として必要な技術だ	4.71	4.78	0.07
	⑫自分はこの表現方法を身につけている	2.76	3.38	0.62

※事前・事後：各設問ごとの平均値

※増加量：事後の平均値-事前の平均値

表6は、「表現」に関して自身の認識に当てはまる言葉についての選択者数とその割合と選択者の増加量を示したものである。全体をみると、事前と事後を比較して1人当たりの選択した言葉が増えている。授業前に比べて表現を多角的に捉える視点が身についたことが分かる。選択肢別にみると、授業前に比べて授業後には自己発見・自己発達・自己認識・内省力など、自身の特性を見直す手段として表現を捉える言葉を選択した人が増加している。また、表現を自己主張・コミュニケーション手段として捉える人は事前に比べて事後で減少しているが、事前・事後ともに他の選択肢に比べて割合が高かった。

表6 授業前後の「表現」の捉え方の変化

【2】あなたにとって表現とは？ (n=199)	事前	選択者の割合 (%)	事後	選択者の割合 (%)	増加量
自己主張	147	73.9	140	70.4	-7
自己発見	32	16.1	67	33.7	35
自己開放	61	30.7	85	42.7	24
自己満足	16	8.04	29	14.6	13
自己認識	16	8.04	46	23.1	30
自己発達	30	15.1	65	32.7	35
自己肯定感	7	3.52	21	10.6	14
承認欲求	13	6.53	20	10.1	7
心情の育成	64	32.2	82	41.2	18
社会とのつながり	50	25.1	75	37.7	25
感情の表出	125	62.8	139	69.8	14
他者理解	64	32.2	95	47.7	31
コミュニケーション手段	165	82.9	159	79.9	-6
内省力	15	7.54	48	24.1	33
合計	805		1071		266

※事前・事後：言葉を選択した人数 ※選択者の割合：事前・事後/n=199*100 (%)

※増加量：事後の選択者数-事前の選択者数

表7は、「表現」に関して連想する言葉についての選択者数とその割合を示したものである。全体をみると、事前より事後に選択した言葉が増えている。表現を様々な視点と結び付けて考えるようになったことが分かる。選択肢別にみると、集中力・理解力・他者理解・判断力など、授業において教員が学生に大きく求めた事柄について、授業後に選択した学生が増加した。

表7 授業前後の「表現」の捉え方の変化

【3】関係する言葉 (n=199)	事前	選択者の割合 (%)	事後	選択者の割合 (%)	増加量
好奇心	98	49.2	87	43.7	-11
探究心	44	22.1	66	33.2	22
競争心	20	10.1	24	12.1	4
向上心	56	28.1	77	38.7	21
自立心	42	21.1	63	31.7	21
注意力	14	7.04	34	17.1	20
集中力	35	17.6	76	38.2	41
理解力	48	24.1	83	41.7	35
判断力	30	15.1	61	30.7	31
表現力	159	79.9	146	73.4	-13
社会性	55	27.6	64	32.2	9
協調性	71	35.7	87	43.7	16
感受性	76	38.2	97	48.7	21
積極性	89	44.7	108	54.3	19
創造性	118	59.3	142	71.4	24
柔軟性	72	36.2	78	39.2	6
想像力	127	63.8	137	68.8	10
調和	43	21.6	55	27.6	12

自主性	58	29.1	79	39.7	21
記憶力	26	13.1	46	23.1	20
機敏性	23	11.6	27	13.6	4
思考力	79	39.7	99	49.7	20
社交性	59	29.6	71	35.7	12
受容と共感	44	22.1	62	31.2	18
人間関係	107	53.8	112	56.3	5
他者理解	54	27.1	88	44.2	34
社会とのつながり	37	18.6	61	30.7	24
心身の開放	57	28.6	64	32.2	7
合計	1741		2194		453

※事前・事後：言葉を選択した人数 ※選択者の割合：事前・事後/ $n=199 \times 100$ (%)

表8は、授業内容について授業後に「興味を持った」「役に立った」「重要だと感じた」の各視点から5段階 自己評価の平均値を示したものである。すべての単元において、興味を持った、役に立った、重要だと感じたそれぞれの平均値が4.00を超えており、授業内容が学生にとって学習度の高いものだったことが分かる。単元4、単元8については特に各項目の平均値が高い。振付やオリジナルリズム遊びの創作など、他者と協力しながら自分たち自身で何かを創造した単元について、より達成感が強く学習度も高かったことが分かる。

表8 授業内容についての自己評価

【4】授業内容について	興味をもった	役に立った	重要だと感じた
1. 領域「表現」についての基本的な考え方	4.21	4.44	4.60
2. 身体表現①	4.03	4.27	4.50
3. 身体表現②	4.12	4.37	4.54
4. 音楽表現・身体表現	4.27	4.47	4.61
5. 音楽表現	4.19	4.42	4.52
6. 言語表現	4.11	4.18	4.42
7. 表現する力を育てるための保育者の役割と援助	4.36	4.47	4.57
8. リズム表現	4.37	4.57	4.61

3. 考察

(1) 量的変化からみた授業前後の学生の意識変容

学生は、授業前からすでに表現活動が保育士にとって必要な技術であると感じており、授業後もその意識は変わっていない。このことから、学生らは授業前から保育士を目指す気持ち強いということが窺える。また保育士として働くうえで表現活動が必要であり、子どもたちの表現を引き出すためには表現活動に関する技術が必要だという「イメージ」をもっていると考えられる。というのも、調査対象の学生は1年生であり、実習を経験しておらず、他の授業も多くは履修していない状態だからである。「イメージ」は場合によっては「固定概念」となりうる。学生は授業前には表現活動はどちらかというと苦手だという意識がある。これは表現活動への「固定観念」も大きく影響しているのではないだろうか。表現活動は恥ずかしい、表現活動は難しい、など学生たちは本当の表現活動を知らないが故に苦手だ、と感じていたのかもしれない。

注視したいのは、学生が授業前から表現活動についてはどちらかというと好きだと感じているが、

授業を受けることによってさらに表現活動が好きだという意識に近づいているという点である。学生は、授業前から表現活動は「どちらかというと好きだ」と感じているのである。他人の前で表現活動を実施するのは苦手だけれど、自分の中で表現したり、表現活動について見たり触れたりすることは好きだ、と感じているのではないだろうか。授業前の表現活動は好きだけれど苦手、という学生の意識は、現代の若者の徴候を捉える手がかりにもなりうるかもしれない。

(2) 表現の捉え方の変化からみた学生の変容

「あなたにとって表現とは?」、「表現に関係すると考える言葉」について、授業前に比べて授業後には1人あたりの選択する言葉が増えた。このことから、学生は授業を受けることによって、表現を多角的に捉えることができるようになったと考えられる。特に、表現とは「自己発見」「自己発達」「自己認識」「内省力」だ、と捉えた人が増えており、授業の中で表現とは自分と向き合うことだという意識が芽生えたのではないかと考えられる。これは授業において実際に学生が表現活動を様々なかたちで実施できたことが大きく影響していると考えられる。今まで行ってこなかった活動を実施したことで新しい自己の発見、自己との対峙につながったと思われるので、授業において多くの発表活動を行ったことは学生に良い影響を与えたと考えられる。

また、表現と関係する言葉としては「集中力」「理解力」「他者理解」「判断力」を選択した学生が増えており、授業内容だけではなくグループワークをする中で教員が意識して投げかけた言葉、発表を行う際に注意した点が学生にとっての表現から連想する言葉として反映されたと考えられる。

しかし、授業目標として学生に身につけてほしかった「協調性」「社会性」「人間関係」という言葉では選択者は増加していなかった。これは授業において活動ごとに新しいグループをつくることを求めたことで学生は常に新しい人間関係を構築することに追われ、関係を深めることができなかったことが影響しているのではないかと考えられる。目標と成果をつなげられるよう、授業の行い方をより細かに検討し、構築していく必要がある。また保育内容の他領域である「健康」「人間関係」「環境」「言葉」との関連性を意識した授業展開も検討していきたい。

(3) 授業の振り返りからみた効果的な授業内容

授業後の各単元についての調査では、「4. 音楽表現・身体表現」と「8. リズム表現」の数値が「興味を持った」、「役に立った」、「重要だと感じた」各視点での自己評価がいずれも高かった。4. ではグループで歌・わらべうたに振付をする。また、8. ではグループでオリジナル リズム遊びを創作する。授業において、知識をただ受け取ったり、決められた内容を学んだりするだけではなく、「自分で創る」経験をしたこと、「創れた」、「出来た」という実感を得たこと、仲間と協力して完成したという「達成感」および自分たちの創作した作品を全員で行う「一体感」を味わったことがこの評価に作用したのではないかと考えられる。

(4) 自由記述からの所感

学生アンケートについて

「最初は恥ずかしかった」という記述が多く見受けられた。他人とコミュニケーションをとること、自身の内面を開示することに羞恥心を抱く若者が多いと考えられる。しかし、「表現以外にも当たり前のことをこなすこと、…（中略）…など学ぶことが多かった」など、授業ではグループワークなど他人とコミュニケーションをとらざるを得ない状況になることで表現以外の人間的な面での学びも多く得たのではないかと考えられる。

その他、自分自身の変化について前向きに捉え、実感を得ている記述が多く見受けられた。

教員アンケートについて

「学生に対する姿勢、伝え方（指導の方法、指導力）」、「学生と向き合う姿勢、わかりやすく理解させていく技法」など、授業の行い方や教員の力量も学生の変容を促した一因であると捉えられる記述が見受けられた。

4. 今後の課題

今回の研究における反省点として、学生への授業事前・事後共通で調査した「【2】あなたにとって表現とは?」、「【3】表現に関係すると思われる言葉」の項目について、質問の意図を理解してもらった聞き方であったか、ということが挙げられる。表現の本質を聞いているのか、表現において必要な能力を聞いているのか、表現によって育つものを聞いているのか、こちらの意図が伝わるように明確な設題を設定したほうがよかった。また、授業事前・事後共通で調査した「【1】表現活動に対する意識」における「表現方法を身につけているか」という項目については、入学前の学生の表現活動の経験の有無にも左右されると考えられる。授業前後の変容を捉えるとともに、今後の調査においては個人のピアノや歌唱、ダンスや演劇の経験によってどのような差異が生まれるのか探っていきたい。更に、今後授業事後に調査した授業全体の感想に関する自由記述部分についても質的調査を行い、量的調査の追従を行っていききたい。

今回の研究により、現行の「こどもとリズム表現」の授業内容が学生に意識変容をもたらしていると示唆された。だが、実質7.5コマの授業を受けた学生の変容がその後どこまで維持されるか、または向上していくか、といったところまで継続した調査により探っていきたい。それと同時に、経験の浅い学生に対して7.5コマの中で伝えるべき内容が多く、教員はやりがいを感じるとともに限界も感じている様子が伺えた。今後、現行の授業内容の質を保つと同時に得られる知識や経験を増やすために授業時間自体を増やすこと、さらなる意識変容を促すために段階的な授業を行うことを検討していきたい。また、今後学生の感性や感動を育むという点において、さらに授業内容を検討していきたい。現代の社会状況によって、学生の中には動植物を飼育・観察するなどの体験を充分にしていなかった者もいる。実践的に身の回りの自然に目を向けたり触れたりするなど、より感性や感動を育むことに特化した授業内容を検討していきたい。

参 考 文 献

- 1) 文部科学省：幼稚園教育要領、2008
- 2) 厚生労働省：保育所保育指針、2008
- 3) 内閣府 文部科学省 厚生労働省：幼保連携型認定こども園教育・保育要領、2014
- 4) 田中敏明：幼稚園・保育所指導計画作成と実践のためのねらいと内容集、北大路書房、2014
- 5) 無藤隆・浜口順子：表現、萌文書林、2008
- 6) 溝口綾子：保育内容の指導法「表現」における授業方法の検討～パネルシアターの実践から～、帝京短期大学紀要17号、2012
- 7) 村山ひろみ：保育士養成における音楽の授業内容構造、福山市立女子短期大学研究教育公開センター年報6 p145-149、2009
- 8) 智原江美・鍋島恵美・和田幸子・下口美帆・田中慈子：幼稚園・保育所における表現領域の活動に対応した保育者養成教育のあり方—京都府南部の幼稚園・保育所へのアンケート調査からの検討—京都光華女子大学京都光華女子大学短期大学部研究紀要53. P119-134、2015